

イマカナ

[子育て]

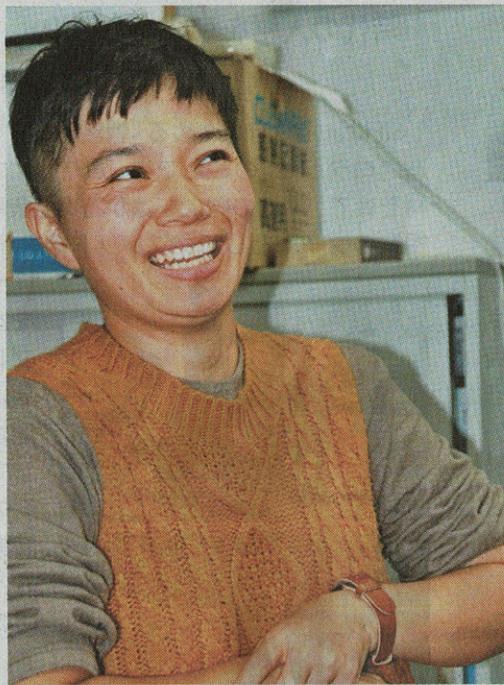
●翻訳絵本

「このままじゃ学校にいけません」

座間の出版社
犀の工房が刊行

座間市にある出版社犀の工房が、同社三冊目の翻訳絵本「このままじゃ学校にいけません」(1760円)を刊行した。一人の少女が疲れて学校や仕事への足取りが重い人たちにこの本を届けたい。同社の出口有加さん(38)はそう話す。

(服部 エレン)



翻訳絵本「このままじゃ学校にいけません」の魅力を語る出口有加さん

からかう男の子には「地球上で一番足が速く、気の強い

チーターに成りきつて仕返し

が子を見守る保護者、子ども

の頃に集団が苦手だった人。

さまざまな人が共鳴できる作

主人公のエディは朝からぐつたり。髪を引っ張られたり、お気に入りのおやつをからかわれたり、学校ではいつも独りぼっち。「何か他のものになりたい」という鬱屈した思

いで、自分をコウモリやホッキョクグマ、アルマジロなどの動物に見立てる。

校に行きたくないエディ

手掛けた。主人公のエディは朝からぐつたり。髪を引っ張られたり、お気に入りのおやつをからかわれたり、学校ではいつも独りぼっち。「何か他のものになりたい」という鬱屈した思

いで、自分をコウモリやホッキョクグマ、アルマジロなどの動物に見立てる。

作者のベン・ブラッシュアーズ

と絵を描いたエリザベス・パークリンドさんは、ともに米国在住の新人作家。

翻訳は「おさるのジョージ」

シリーズ(岩波書店)などの

訳書がある福本友美子さんが

手掛けた。

主人公のエディは朝からぐ

つたり。髪を引っ張られたり、

お気に入りのおやつをからか

われたり、学校ではいつも独

りぼっち。「何か他のものに

なりたい」という鬱屈した思

いで、自分をコウモリやホッ

キョクグマ、アルマジロなど

の動物に見立てる。

からかう男の子には「地球

上で一番足が速く、気の強い

チーターに成りきつて仕返し

も。校長先生から叱られる

と、

カメレオンになつてやり過ご

す。つらい状況をユーモラス

に乗り越えようとする姿が、

切なくもくすつとした笑いを

誘う。

学校に行きたくないエディ

の気持ちを、母親が静かに受

け止める。3人の子どもがい

る出口さんは、「自分を

肯定できない気持ちや、自分

そのものを隠すことの象徴で

はないかと感じます」と解釈

を包む。

後半まで、エディをはじめ

登場人物の顔に目が描かれて

いない。出口さんは、「自分を

肯定できない気持ちや、自分

そのものを隠すことの象徴で

はないかと感じます」と解釈

する。

やがて母親に本心を打ち明けるエディは、真っすぐな目を見せて前を向く。エディの豊かな空想と、子どもの気持ちに寄り添う優しさが伝わる心温まる一冊だ。

自身の子どもたちへの読み聞かせを通じて絵本が身近な存在となつた出口さんは、2年前に犀の工房を立ち上げて以降、一人で会社を切り盛りしている。

「子どもも大人も夢の世界

に入り込めるし、現実にも向

かえる。絵本つていいものだ

など、つくづく思います」。

本作を眺めながらそうかみしめる出口さん。毎日に疲れ、気分が沈みがちな人やその家族が本作に触れ、「少しでも心を軽くしてもらえたたら」と

ユーモアを通じて 心を軽く

品だと気きました。

本作の魅力は、エディの心

情のように繊細な絵のタッチ

にある。全編を通してバス

テル調の優しい色合いが物語